

私は、平成 11 年に北海道職員に採用され、これまでは主に漁場整備の計画策定、設計積算、工事監督を担当してきました。漁場整備とは、水産土木技術を用いて魚礁設置、増養殖場の造成、漁場保全等を行う公共事業です。公共事業といえば、道路、河川及び港湾等の整備により私達が快適に生活するための社会基盤整備を思い浮かべますが、漁場整備は人が生きていくうえで重要な動物性タンパク質源である魚介類を国民に安定供給を図ること、水産業を健全に発展させることを目的とした公共事業の一つということで知ってもらえればと思います。

さて、私は公務員技術者として漁場整備を担当してきたことから水産部門の技術士を取得したのですが、より良い社会基盤の整備を行っていくには行政、コンサルタント、建設会社が高い技術レベルを持ち仕事に取り組むことが重要と考えます。コンサルタントや建設会社の技術者は、以前からそれぞれの分野で資格を取得し高い技術水準を保持していますが、近年、技術系の資格を取得し高い意識を持って仕事に取り組む若い公務員技術者が増えてきており、今後もこの傾向が続けば良いと感じています。

最後になりますが、現代社会は様々な技術のおかげで快適な生活を送ることができていると私は思います。今後も技術者として前例踏襲の考え方で仕事に取り組むのではなく、どこに問題があるか、そして最善な解決策は何かを考えながら仕事に取り組み、少しでも社会に貢献していきたいと思っています。

小川 元樹 (おがわ もとぎ)

●水産部門(水産土木)

勤務先

北海道後志総合振興局
産業振興部水産課



→ 次号は、秋野秀樹さん(水産部門)

今年オリンピックイヤーで、7月にロンドンで夏季大会が開催されます。40年前の1972年(昭和47年)にはアジア初の冬季大会、札幌オリンピックが開催され、「大会を機に札幌は大きな変貌を遂げた」とわれています。地下鉄・地下街や市内幹線道路、空港への高速道路など、現在も利用されるインフラが集中的に整備されたためです。

ただ当時の関係者の資料をひも解くと、オリンピック開催のために札幌が変わったというより、もう少し別の見方ができるようです。例えば関東大震災復興事業で知られる後藤新平の影響があるといったら驚かれるでしょうか。もうひとつ、オリンピックが札幌にもたらしたのは当時の最高水準のデザインです。競技施設、選手村などの関連施設から、メダルなどの記念品、ポスターをトップデザイナーが手がけています。記念品は世界中に持ち帰られましたが、施設の多くは現在も私たちの身近に残っています。建築家ル・コルビュジエの弟子、前川國男による最大規模の建物が真駒内公園にあり、大阪万博のパビリオンと同じ手法で設計されたプレスセンターは名前と用途を変えて今も利用されています。このような札幌オリンピックのデザインについて、このほど本にまとめました。「エンジニアの新発見・再発見」(共同文化社)に収録されていますので、よかったらお手にとってみてください。40年後の現在から見ると意外な再発見があるかもしれません。

林 昌弘 (はやし まさひろ)

●建設部門(建設環境)

勤務先

株式会社 ドーコン 東京支店
e-mail : mh1262@docon.jp



→ 次号は、奈良幸則さん(農業部門)